



戦争法案を廃案に！ 代田・九条の会が下北沢で宣伝 署名訴える

戦後最悪の戦争法案が7月16日衆議院本会議で、自民・公明両党によって強行採決され、参議院での審議が始まりました。

代田・九条の会では、7月18日急遽、法案の内容を知らせ、反対署名を訴えて行動を行いました。台風の影響で激しい風が吹く中、「ストップ戦争法」の幟や横断幕、代田・九条の会の黄色い旗をはためかせハンドマイクでリレートークを続けました。

「戦争になる、とんでもない」と歩み寄って署名する人が次々ときて、二人連れの高校生、買い物に向かう夫婦、自転車をとめて「頑張ってください」と励ます人など、1時間で署名45筆、チラシ147枚の受け取りがありました。

しかし、私たちの呼びかけに無視する人、「自分は賛成派」と言っていく人、我がことと思わないそぶりで通り過ぎていく街の様子もあり、次回の宣伝行動を計画しました。

8月2日。猛暑でしたが、午後4時から同じ下北沢オオゼキ前でリレートークをしながら、横断幕、幟、ポスターを広げ、署名を呼び掛けました。

父親と歩いてきた高校生くらいの青年がチラシを受け取り、スッと寄ってきて署名をしていきました。横須賀で元自衛隊員だったという男性は署名をし「自衛隊員は法案の動きを心配しています（反対運動や署名活動に）ありがとうございます」と言っていられました。この日は1時間で署名50筆、チラシ受け取り約200枚でした。多くの方から「暑い中をご苦労様」「身体に気を付けて頑張ってください」と励まし声を掛けられ、元気が出る行動となりました。(7月18日:14人、8月2日:13人が参加)。(代田1丁目・岩瀬 薫)



代田・九条の会、次回宣伝・署名行動は8月22日(土)午後4時~5時。
下北沢オオゼキ前 暑さが予想されますが、皆さんの参加をお待ちしています。



「沖縄ういずんの雨」を観て

映画「日本国憲法」のジャン・ユンカーマン監督の映画です。

沖縄戦の記録と証言、戦後の復帰前と復帰後の沖縄、現在の沖縄が、監督のナレーションで進行していきます。フェンスに赤いガムテープをはり、色とりどりのビニルテープを結わえて、基地NOの意志表示をする人たち、一方でそれが汚いと一つ一つ取り払っていく同じ沖縄の人と米海兵隊員がいます。

多くの住民が追いつめられて、集団自決をする中で、ガマから出て助かった経験を語るおばあ。沖縄戦を戦った元知事の太田さんの証言。元米兵へのインタビューや米軍の記録した戦場の映像もあります。70年たっても、沖縄戦を経験したすべての人の苦しみや悲しみは消えません。

戦後の米兵の犯罪について、特に、女性(女兒を含む)へのレイプ、殺人の多さについても取材しています。「私たちの戦争と平和資料館」(東京)での沖縄の米兵の性犯罪についての展示も紹介されていました。被害者は沖縄の女性だけではなく。女性の米兵の被害も年200件あり、今まで声をあげられなかった女性兵士がSwanという団体を作り、声を上げ始めています。

アメリカは、江戸時代に浦賀にペリーが来る前、まず沖縄に来ています。沖縄はアメリカのアジア侵略の要でした。戦争に勝って念願の沖縄を手に入れ、日本に返還されても自分たちのものと思っているのだと、よくわかりました。私たち、本土の人間はそれにNOと言わなければなりません。

平和の礎には沖縄県人だけでなく、沖縄戦で亡くなったすべての人の名前があります。武力で平和は作れない。二度と戦争をしてはならない。今、憲法九条の力が試されているとき、九条を放棄していいのか、強く問われています。本で紹介ですが、石川文洋著「フォト・ストーリー沖縄の70年」もぜひ読んでもらいたいです。

(代田4丁目・萱野 幸子)

高岡 岑郷さんを悼む

高岡さんと初めてお会いしたのは7年前の代田・九条の会の創立総会の時であった。その時、高岡さんは「井上ひさしさんたちと国民学校一年生の会を立ち上げ、事務局長をしている」と話されたので、私より2歳若いと思ったことを憶えている。それから、1993年都教組が編集した、昭和22年発行の冊子「あたらしい憲法のはなし」の復刻版を戴いた時、高岡さんがあとがきを書かれ「東京都教職員組合執行委員長」とあったので経歴の一端を知った。

高岡さんは、世田谷九条の会、九条の会東京連絡会、東京革新懇などの中心的メンバーとして極めてご多忙であったが、月1回の代田・九条の会の事務局会議には欠かさず出席されていた。顔の広さは驚くほどで講演会の講師などをよく知っておられ、候補が決まるとすぐその場から確認を取られるなど、すべてにお世話になった。

元気な高岡さんが、4月の行事の前に急に体調を崩され、歩行すら困難になられたと聞いて驚いた。その後、医師から原発性肺がんと診断され、入院の後6月26日急逝されたことは、惜しみても余りあり、かけがいのない人を失って呆然とするばかりである。

高岡さんは話も上手だったので、集会のときにはよく挨拶をお願いした。また詩人で、自作の詩などを朗読して頂いた。その一編を紹介して、高岡さんが生命をかけた平和憲法を、私たちが守り抜くことをお誓いして、高岡さんの霊安かれとお祈りする。
(代田5丁目・野間口 至)



いのち 高岡 岑郷

生まれたとき、この国は戦の最中だった
子どものとき、夢は戦に行くことだった
学校では「現人神」のために

「往け、戦え、死ね」と教わった

まだ子どもだった時、この国は戦に敗れた

戦いをしない国に生まれかわったこの国で

花を愛で、人を愛して

生き永らえて、生きつづけたいのち

いまの夢は

日本国憲法第九条を

無傷のまま孫たちに手渡すこと

二〇〇四年六月一〇日 詩人会議発行 誌のパンフより

日本国憲法 (抜粋)

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



集会等の紹介

8月30日(日) 午後2時～

戦争法案廃案！安倍政権退陣！

8・30国会10万人・全国100万人大行動

会場：国会議事堂周辺

主催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

代田・九条の会

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう～

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。